

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：17102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26540067

研究課題名(和文) 気持ち悪さの認知的メカニズム

研究課題名(英文) Cognitive mechanism of disgust

研究代表者

山田 祐樹 (Yamada, Yuki)

九州大学・基幹教育院・准教授

研究者番号：60637700

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではヒトがどのような認知メカニズムのもとで気持ち悪さという感情が形成されているのかという問題について検討した。期間内に、結果として22本の査読付き論文と62件の学会発表を行い、日本語版嫌悪感尺度の作成、気持ち悪さや不気味さの個人差の検討、感情と身体との関係、感情の文化差、身体・注意・意識に関わる様々なメカニズムなどを明らかにした。本研究の成果は嫌悪感がどのようにして意識的に感じられているのか、そして嫌悪感に我々の行動がどのように規定されているかを考える上で非常に重要な示唆を与え、今後の研究への橋渡しとなることができた。

研究成果の概要(英文)：In this research, we investigated the question of what cognitive mechanism forms the feeling of disgust. As a result, 22 refereed papers and 62 conference presentations were made within this research period. Here we made Japanese version of disgust scales, tests of individual differences of disgust, eeriness, and discomfort, relationship between emotion and bodily space, cultural difference of embodied emotion, and various mechanisms related to embodiment, attention, and consciousness. The results of this research provided very important suggestions for understanding how disgust is felt consciously and how our behavior is regulated by the disgust emotion. This could make a bridge to future research.

研究分野：認知心理学

キーワード：感情 認知 意識 身体性 個人差 文化差 知覚 注意

1. 研究開始当初の背景

「きもい」という俗語がもはや一般化するほどに、誰もが身近に感じ、言語化している感情であるにもかかわらず、気持ち悪いというのがどういうことかは意外と分かっていなかった。

応募者は人間の感情処理に関して多方面からの検討を進めており、当時、嫌悪感メカニズムについて以下の様な仮説を考えていた。まず嫌悪感とは、自身にとって緊急でない損害を回避するためのものであると言える。そのメカニズムは意識的・無意識的過程の両方によって成り立つと考えていた (Damasio et al., 2000; Schachter & Singer, 1962)。それらは対象の有害性を判断する情動処理 (Yamada & Kawabe, 2011, *Conscious Cogn*: 不潔さや「死」関連の処理もこれに含まれる)、認知的分類処理 (Yamada et al., 2012, *Adv Cogn Psychol*; 2013, *Jpn Psychol Res*), 身体空間と感情の連合処理 (Marmolejo-Ramos et al., 2013, *PLOS ONE*; Sasaki et al., 2012, *Perception*: とともに応募者の共同研究), そして低次知覚処理 (e.g., visual discomfort: Cole & Wilkins, 2013) などであった。嫌悪感とは、これら全ての処理が無意識的に行われ、単一に統合された結果としての意識体験であると考えていた。そしてこの統合は経験に基づくベイジアン的な様式でなされると予想していた。

2. 研究の目的

そこで本研究で明らかにしたかったことは、(1)これらの処理が本当に嫌悪感を左右するのか、(2)統合様式はどのようなものか、(3)嫌悪感とは人間だけが持つ感情なのか、の3点であった。

本研究は気持ち悪さ (嫌悪感) がいかなる内的機序によって形成されるかを明らかにしようとする世界で初めての試みであり、実証される可能性も高いと考えていた。したがって、計画が達成された場合には認知科学、臨床心理学 (恐怖症治療にも応用できるため)、神経科学といった非常に多くの分野の研究者に大きなインパクトを与え、後続の研究を誘発する契機となることを期待された。

3. 研究の方法

本研究は、嫌悪感の形成に関わる認知的メカニズムを認知科学的・比較心理学的に明らかにすることを目的としていた。そのため以下の様な計画に基づく研究を予定していた。

- ・初年度では目的 1)に関する基本実験、および目的 2)に関する統合様式に関する実験を主に進める。
- ・翌年度では、主に目的 3)に関する動物を用いた実験を進める。
- ・常に研究成果を国際学会や国内学会にて積極的に報告し続ける。また同時に論文執筆も行い、最終的に3本以上の論文を国際的に評価の高い雑誌に掲載させることを目指す。

・認知科学/比較心理学という2つのアプローチに基づく研究計画をフレキシブルに運用しながら研究を進行させる。事前準備と協力体制の整備は計画開始前に完了させる。

具体的には、目的 1)に関する計画は3つの要素からなった。

(1) まずは日本語版嫌悪感尺度を作成する。日本語訳した尺度を用いて3回の調査を300人程度の調査対象者に対して行い、内的整合性、因子構造、収束の妥当性 (例えば死生観尺度・状態特性不安検査などを用いる) の確認を行う。この調査にはクラウドソーシングを用いる。

(2) 同時期に、多孔恐怖を喚起する画像 (蓮を人間にコラージュしたような画像) を用い、中域の空間周波数成分 (多孔恐怖と関連すると考えられている; Cole & Wilkins, 2013) を増減させた画像を作成し、その画像に対する嫌悪感を測定しておく。

(3) これらの準備が整った後、閾下呈示あるいは連続フラッシュ抑制 (Tsuchiya & Koch, 2005) により無意識レベルで情動刺激、認知的分類の難易度の異なる刺激、上下の身体状態を示す画像・シンボル、または多孔画像を出現させた際に生じる嫌悪感を、日本語版嫌悪感尺度を用いて計測する。

目的 2)に関する計画では、過去の経験に基づくベイズ統計的規則に従いながら各嫌悪感関連処理の出力が嫌悪感形成に利用されると考えており、それを検討する。

さらに嫌悪感形成時の認知的抑制の役割も検討しようと考えていた。先行研究では尿意を我慢することにより他の非関連処理を抑制するモードに切り替わることが提案されている (Tuk et al., 2013 *Psych Sci*)。同様に、尿意の強さによって嫌悪感反応を生じさせる処理出力への反応も弱まることが予測される。これらの検討は嫌悪感を弱めるための応用的利用にも繋がる。

目的 3)については、動物に多孔画像をコラージュした「蓮コラ」と一般に呼ばれる刺激を作成し、それを呈示することで、動物においても気持ち悪さの感情が生起するかを検討しようとしていた。あるいは3D スキャナを用いることで実物の蓮コラを作成する予定も立てていた。

4. 研究成果

結果として、まず目的 1)に関しては、日本語版嫌悪感尺度を2種類開発することができ、1つは国際誌に掲載され (Iwasa, Tanaka, & Yamada, 2016, *PLOS ONE*)、もう一つは査読を受けて現在修正再投稿中である (岩佐・田中・山田, 修正中)。

さらに、集合体嫌悪感尺度の日本語版を開発し、集合体嫌悪感と社交不安の関係性を明らかにした (Chaya et al., 2016, *PeerJ*)。また集合体嫌悪感刺激に対して生じる不快感の原因を探るために空間周波数特性と集合体嫌悪感の個

人差との関係性も検討した (Sasaki et al., submitted).

これらの研究により、目的1の多くの部分は達成できた。すなわち、日本人サンプルにおける嫌悪感や集合体嫌悪の個人差を測定可能にし、後の研究への足がかりを作ることができた。

次に目的2に関してであるが、実験的検討は行ったものの、当初の計画通りの実験では芳しい結果は得られなかった。そこで発想を変え、嫌悪感を制御するための別の方法を探ることとした。そこで注目したのがオノマトペである。つまり、嫌悪感を喚起する際に、ある種のオノマトペを視覚や聴覚モダリティにて対呈示することで、体験される嫌悪感の強さを変調しようとした。結果として、オノマトペに確かな変調効果があることが確認された。研究期間中に雑誌への掲載まで至ることはできなかったが、本研究は現在専門誌での査読を受けて修正再投稿中である(薛・佐々木・郷原・山田, 修正中)。

最後に目的3についてであるが、現在イルカの視覚機能に関する研究を遂行中であるものの(山田ほか, 2014), まだ嫌悪感を含めた感情刺激を用いた検討には至っていない。本トピックについての進展は今後の課題である。

総じて、本研究はまさに萌芽的テーマであったため、当初の予定通りに進まないことも多かった。しかしその中で可能な限り、可能な範囲で多様な方向性を求めて研究を進めたつもりである。その結果、計22本の査読付き論文や多くの学会発表によって次なるステップへの下地を形成することには成功したと考えている。嫌悪感の認知的メカニズムに関する研究は、いまや萌芽的様相を超え、その核心に迫る研究を始めるところまで来た。今後は基盤研究として、今よりも多くの研究分担者・連携研究者等の協力者とともに、本トピックに精力的に取り組んでいきたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 22 件) 全て査読付き

1. Okazaki, Y. S., Asakawa, A., Ishii, K., & Yamada, Y. (2017). The stuffed animal sleepover: Enhancement of reading activity and the duration of effect. *Heliyon*, 3, e00252.
2. 清水邦義・吉村友里・中川敏法・松本清・鷺岡ゆき・羽賀栄理子・本傳晃義・中島大輔・西條裕美・藤田弘毅・渡邊雄一郎・岡本元一・井上伸史・安成信次・永野純・山田祐樹・岡本剛・大貫宏一郎・石川洋哉・藤本登留(印刷中)。スギ材を内装材として使用した室内空間における揮発性成分の分析およびその季節変動 *木材学会誌*
3. Nitta, H., Tomita, H., Zhang, Y., Zhou, X., & Yamada, Y. (proposal accepted). Disgust and the rubber hand illusion: A registered replication report of Jalal, Krishnakumar, and Ramachandran (2015). *Cognitive Research: Principles and Implications*.
4. Kawabe, T., Sasaki, K., Ihaya, K., & Yamada, Y. (2017). When categorization-based stranger avoidance explains the uncanny valley: A comment on MacDorman and Chattopadhyay (2016). *Cognition*, 161, 129-131.
5. Gobara, A., Yamada, Y., & Miura, K. (2016). Crossmodal modulation of spatial localization by mimetic words. *i-Perception*, 7, 1-9.
6. Iwasa, K., Tanaka, T., & Yamada, Y. (2016). Factor structure, reliability, and validity of the Japanese version of the Disgust Propensity and Sensitivity Scale-Revised. *PLOS ONE*, 11(10): e0164630.
7. Ariga, A., Yamada, Y., & Yamani, Y. (2016). Early visual perception potentiated by object affordances: Evidence from a temporal order judgment task. *i-Perception*, 7, 1-7.
8. Marmolejo-Ramos, F., Correa, J. C., Sakarkar, G., Ngo, G., Ruiz-Fernández, S., Butcher, N., & Yamada, Y. (2016). Placing joy, surprise and sadness in space: A cross-linguistic study. *Psychological Research*.
9. Chaya, K., Xue, Y., Uto, Y., Yao, Q., & Yamada, Y. (2016). Fear of eyes: Triadic relation among social anxiety, tryphobia, and discomfort for eye cluster. *PeerJ*, 4:e1942.
10. 山田祐樹 (2016). 認知心理学における再現可能性の認知心理学 *心理学評論*, 59(1), 15-29.
11. Kishimoto, R., Sasaki, K., Gobara, A., Ojiro, Y., Nam, G., Miura, K., & Yamada, Y. (2016). When a silhouette appears male: Observer's own physical fitness governs social categorization of sexually ambiguous stimuli. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, 7, 17-20.
12. Yamani, Y., Ariga, A., & Yamada, Y. (2016). Object affordances potentiate responses but do not guide attentional prioritization in a visual search task. *Frontiers in Integrative Neuroscience*, 9:74.
13. Sasaki, K., Yamada, Y., & Miura, K. (2016). Emotion biases voluntary vertical action only with visible cues. *Acta Psychologica*, 163, 97-106.
14. Ojiro, Y., Gobara, A., Nam, G., Sasaki, K., Kishimoto, R., Yamada, Y., & Miura, K. (2015). Two replications of "Hierarchical encoding makes individuals in a group seem more attractive (2014; Experiment 4)". *The Quantitative Methods for Psychology*, 11, r8-r11.
15. Sasaki, K., Yamada, Y., & Miura, K. (2015). Post-determined emotion: Motor action retrospectively modulates emotional valence of visual images. *Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences*, 282: 20140690.
16. Aoyama, T., Shimizu, S., & Yamada, Y. (2015). Free will and the divergence problem. *Annals of the Japan Association for Philosophy of Science*, 23, 1-18.
17. Yamada, Y., Kawabe, T., & Miyazaki, M. (2015). Awareness shaping or shaped by prediction and

- postdiction: Editorial. *Frontiers in Psychology*, 6:166.
18. Yamada, Y. (2015). Gender and age differences in visual perception of pattern randomness. *Science Postprint*, 1(2): e00041.
 19. Yamada, Y., Sasaki, K., Kunieda, S., & Wada, Y. (2014). Scents boost preference for novel fruits. *Appetite*, 81, 102-107.
 20. Yamada, Y., Harada, S., Choi, W., Fujino, R., Tokunaga, A., Gao, Y., & Miura, K. (2014). Weight lifting can facilitate appreciative comprehension for museum exhibits. *Frontiers in Psychology*, 5:307.
 21. Yamada, Y., Sasaki, K., & Miura, K. (2014). Time-to-contact estimation modulated by implied friction. *Perception*, 43, 223-225.
 22. Ihaya, K., Seno, T., & Yamada, Y. (2014). *Più mosso*: Fast self-motion makes cyclic action faster in virtual reality. *Latin American Journal of Psychology*, 46, 53-58.

〔学会発表〕（計 62 件）

国際学会発表

1. Fuyuno, M., Yamashita, Y., Yamada, Y., & Nakajima, Y. (2016). Developing effective instructions to decrease Japanese speaker's nervousness during English and Japanese public speeches: Evidence from psychological and physiological measurements. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.
2. Sasaki, K., & Yamada, Y. (2016). Sense of object ownership and sense of agency. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.
3. Xue, Y., Chaya, K., Uto, Y., Yao, Q., & Yamada, Y. (2016). Fear of eyes: The influence of social anxiety on trypophobic eyes. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.
4. Gohara, A., Yamada, Y., & Miura, K. (2016). Sound symbolism modulates perceptual judgment on dynamic events. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.
5. Shigyo, M., Tsuzuki, N., Hamakawa, M., Tamura, K., Yamada, Y., Ishikawa, H., Kimura, A., Morinaga, M., Matsumune, N., & Okamoto, T. (2016). The emotional and electrophysiological effects of odor masking. The 17th International Symposium on Olfaction and Taste (ISOT2016), Yokohama, Japan.
6. Marmolejo-Ramos, F., Correa, J. C., Sakarkar, G., Ngo, G., Ruiz-Fernández, S., Butcher, N., & Yamada, Y. (2015). The place of joy, surprise and sadness in vertical space. The 6th International Conference on Spatial Cognition, Rome, Italy.
7. Butcher, N., Correa, J. C., Sakarkar, G., Ngo, G., Ruiz-Fernández, S., Yamada, Y.,

- Marmolejo-Ramos, F. (2015). A cross-linguistic study of the embodiment of joy, surprise and sadness in vertical space. The 32nd Annual meeting of the BPS Cognitive Psychology section, Kent, UK.
8. Sasaki, K., Yamada, Y., Ariga, A., Ihaya, K., Yamamoto, K., Ono, F., & Miura, K. (2015). The space-emotion relationship is reconstructed through musical experience: Embodied emotion is labile. The 14th European Congress of Psychology, Milan, Italy.
9. Kadota, H., Yamada, Y., Dote, T., Iwata, M., Kochiyama, T., & Miyazaki, M. (2014). Neural correlates of pattern randomness judgment. The Annual Meeting of the Society for Neuroscience, Washington DC, USA.
10. Yamada, Y., Kadota, H., Dote, T., Iwata, M., Kochiyama, T., & Miyazaki, M. (2014). Pattern randomness judgment activates the lateral occipital complex. The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Yokohama, Japan.
11. Sasaki, K., Yamada, Y., & Miura, K. (2014). Postdictive emotion-action coupling: A subsequent action modifies emotional valence of a preceding visual event. 2014 International Conference on Education, Psychology, and Social Sciences, Taipei, Taiwan.
12. Sasaki, K., Yamada, Y., & Miura, K. (2014). Can unaware emotional information activate space-valence association? The 10th Asia-Pacific Conference on Vision, Takamatsu, Japan.

国内学会発表

1. 山田祐樹 (2017) 認知心理学からみた好き嫌い 日本木材学会抽出成分利用研究会 招待講演 九州大学, 福岡県福岡市
2. 大竹裕香・郷原皓彦・中響子・米満文哉・佐々木恭志郎・奥村優子・渡邊直美・藤田早苗・服部正嗣・山田祐樹・小林哲生 (2017) 絵本検索システム「ぴたりえ」を用いた絵本探し支援の効果 電子情報通信学会 HCS 研究会 口頭発表 なみきスクエア 福岡県福岡市
3. 松原和也・角谷雄哉・山田祐樹・木村敦・曲山幸生・宮ノ下明大・日下部裕子・和田有史 (2017) 昆虫の可食性に関する顕在的・潜在的態度 日本視覚学会 2017 年冬季大会 ポスター発表 NHK 放送技術研究所 東京都世田谷区
4. 郷原皓彦・山田祐樹 (2017) 交差・反発知覚を決定づける運動方向の上下異方性 日本視覚学会 2017 年冬季大会 ポスター発表 NHK 放送技術研究所 東京都世田谷区
5. 佐々木恭志郎・山田祐樹 (2016) クラウドソーシングによる知覚研究—コントラスト感度測定の場合 電子情報通信学会 HIP 研究会 口頭発表 東北大学 宮城県仙台市
6. 佐々木恭志郎・郷原皓彦・大竹裕香・米満文哉・中響子・奥村優子・渡邊直美・藤田早苗・服部正嗣・山田祐樹・小林哲生 (2016) 絵本検索システムを用いた図書館での母親の絵本探し支援の試み 九州心理学会第 77 回大会 ポスター発表 西南学院大学 福岡県福岡市

7. 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹 (2016) おそ松くんは実写化すると不気味になる—多重重複顔によるクローン減価効果—九州心理学会第 77 回大会 ポスター発表 西南学院大学 福岡県福岡市
8. 郷原皓彦・山田祐樹 (2016) 交差・反発知覚は感情処理とリンクする九州心理学会第 77 回大会 ポスター発表 西南学院大学 福岡県福岡市
9. 古屋謙治・田村茂彦・早川敏之・安田章人・山形伸二・山田琢磨・山田祐樹 (2016) 課題協学科目:九州大学基幹教育における全 1 年生必修の文理混合 PBL 型授業 大学教育学会 2016 年度課題研究集会 ポスター発表 千葉大学 千葉県千葉市
10. 藤村颯・宮城拓弥・黒田剛士・山田祐樹・竹内成生・宮崎真 (2016) 視覚パタンの乱雑さ判断の神経相関—事象関連電位による研究 第 14 回情報学ワークショップ ポスター発表 愛知県立大学 愛知県長久手市
11. 冬野美晴・山田祐樹 (2016) スピーチ訓練のためのバーチャルオーディエンスの開発と検証 第 23 回日本教育メディア学会年次大会 口頭発表 奈良教育大学 奈良県奈良市
12. 郷原皓彦・米満文哉・中響子・佐々木恭志郎・大竹裕香・奥村優子・渡邊直美・服部正嗣・藤田早苗・山田祐樹・小林哲生 (2016) こどもの興味にぴったりの絵本検索システム「ぴたりえ」を用いた福岡市東図書館での試み 第 18 回図書館総合展 ポスター発表 パシフィコ横浜 神奈川県横浜市
13. 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹 (2016) どうして一休さんはクリエイティブなのか?—創造性と閉眼—中国四国心理学会第 72 回大会 ポスター発表 東亜大学 山口県下関市
14. 米満文哉・井隼経子・山田祐樹 (2016) 心理的レジリエンスと時間的注意特性—注意の瞬きを用いた検討—日本基礎心理学会第 35 回大会 ポスター発表 東京女子大学 東京都杉並区
15. 薛玉テイ・茶谷研吾・宇土裕亮・ヤオケイエイ・山田祐樹 (2016) 目目目目目目目目—社会不安とトライポフォビアと衆目恐怖—日本基礎心理学会第 35 回大会 ポスター発表 東京女子大学 東京都杉並区
16. 佐々木恭志郎・山田祐樹 (2016) モノの所有感と行為主体感の共通基盤 日本基礎心理学会第 35 回大会 ポスター発表 東京女子大学 東京都杉並区
17. 郷原皓彦・山田祐樹 (2016) 比喩的な視聴覚手がかりによる運動事象知覚の変容 日本基礎心理学会第 35 回大会 ポスター発表 東京女子大学 東京都杉並区
18. 石井健太郎・進藤友馬・山田真世・浅川淳司・山田祐樹・岡崎善弘 (2016) 拡張現実感を利用した子どもの読書活動の促進 第 15 回情報科学技術フォーラム(FIT2016) 口頭発表 富山大学 富山県富山市
19. 薛玉テイ・郷原皓彦・佐々木恭志郎・山田祐樹 (2016) 触覚オノマトペは素材に対する視覚的嫌悪感を変調する 日本認知心理学会第 14 回大会 ポスター発表 広島大学 広島県東広島市
20. 佐々木恭志郎・山田祐樹 (2016) 縦のつながりは支配的:空間と感情の連合の異质性 日本認知心理学会第 14 回大会 ポスター発表 広島大学 広島県東広島市
21. 郷原皓彦・山田祐樹 (2016) 回転運動の交差・反発知覚—局所的な回転運動情報による剛体運動の見えの変容—日本認知心理学会第 14 回大会 ポスター発表 広島大学 広島県東広島市
22. 佐々木恭志郎・山田祐樹 (2016) クロノ・トリガー:規則性が誘発する時間バイアス 日本時間学会第 8 回大会 口頭発表 京都工芸繊維大学 京都府京都市
23. 郷原皓彦・佐々木恭志郎・山田祐樹 (2016) オノマトペから想起される自伝的記憶の古さ 日本時間学会第 8 回大会 口頭発表 京都工芸繊維大学 京都府京都市
24. 山田祐樹 (2016) クラウドソーシングだいき 第 2 回食・心理・脳と応用技術の意見交流会 口頭発表 九州大学 福岡県福岡市
25. 執行真旗・都築菜生・濱川昌之・田村かおり・山田祐樹・岡本剛 (2016) 芳香剤による男性臭マスク時の生理応答 日本生体医工学会九州支部学術講演会 口頭発表 佐賀大学 佐賀県佐賀市
26. 佐々木恭志郎・山田祐樹・黒木大一郎・三浦佳世 (2015) 密集体への不快感は空間周波数に基づくのか? 日本基礎心理学会第 34 回大会 ポスター発表 大阪府東大阪市
27. 郷原皓彦・山田祐樹・三浦佳世 (2015) オノマトペの音韻情報は交差・反発知覚の運動情報と統合される 日本基礎心理学会第 34 回大会 ポスター発表 大阪樟蔭女子大学 大阪府東大阪市
28. 佐々木恭志郎・山田祐樹・三浦佳世 (2015) 感情の後付け:運動動作は画像の感情評価を適及的に変容させる 日本基礎心理学会第 34 回大会サテライトオーラルセッション 口頭発表 大阪樟蔭女子大学 大阪府東大阪市
29. 郷原皓彦・山田祐樹・三浦佳世 (2015) Representational momentum はオノマトペにより変調されるか? 九州心理学会第 76 回大会 ポスター発表 大分県立芸術文化短期大学 大分県大分市
30. 山田祐樹・Juan Correa・Gopal Sakarkar・Giang Ngo・Susana Ruiz-Fernández・Natalie Butcher・Fernando Marmolejo-Ramos (2015) 悲しみと喜びのあいだ—6 つの文化間で共通する驚きの身体性—日本心理学会第 79 回大会 ポスター発表 名古屋国際会議場 愛知県名古屋市
31. 郷原皓彦・山田祐樹・三浦佳世 (2015) 言語の意味情報が交差・反発知覚を決定づける 日本心理学会第 79 回大会 ポスター発表 名古屋国際会議場 愛知県名古屋市
32. 郷原皓彦・山田祐樹・三浦佳世 (2015) オノマトペが交差・反発知覚に及ぼす影響 電子情報通信学会 HIP 研究会, 日本認知科学会 知覚と行動モデリング(P&P)研究分科会研究会 口頭

- 発表 九州産業大学 福岡県福岡市
33. 佐々木恭志郎・山田祐樹・三浦佳世 (2015) 身体動作による感情情報への意識的アクセスの抑制 日本認知心理学会第 13 回大会 ポスター発表 東京大学 東京都文京区
 34. 郷原皓彦・山田祐樹・三浦佳世 (2015) ガツツと反発, シュッと交差—オノマトペが交差・反発知覚を決定づける— 日本認知心理学会第 13 回大会 ポスター発表 東京大学 東京都文京区
 35. 有賀敦紀・山仁雄介・山田祐樹・McCarley Jason (2015) 日常物体の操作性による探索非対称性 日本認知心理学会第 13 回大会 ポスター発表 東京大学 東京都文京区
 36. 山田祐樹 (2015) 知覚的乱雑さ 食と心理・VR・脳の意見交換会 口頭発表 九州大学 福岡県福岡市
 37. 山田祐樹 (2015) 情動メカニズム理解のための多重アプローチ 時間学特別セミナー『時間と心をめぐる冒険』口頭発表 山口大学 山口県山口市
 38. 長池淳・山邊結子・松本清・山本篤・吉村友里・稲上誠・福元菜穂子・中川敏法・藤田弘毅・川崎章恵・佐藤宣子・藤本登留・清水邦義・岡本剛・山田祐樹・永野純・光藤崇子・石川洋哉・大貫宏一郎・井上伸史・渡邊雄一郎・嶋津久憲・安成信次 (2015) 空間嗜好性に着目した異なる木質空間における心理評価の違い 第 65 回日本木材学会大会 ポスター発表 タワーホール船堀 東京都江戸川区
 39. 小代裕子・郷原皓彦・南智然・佐々木恭志郎・岸本励季・山田祐樹・三浦佳世 (2015) ひとりぼっちに惹かれる—集団の構成人数と構成員の魅力度— 日本視覚学会 2015 年冬季大会 ポスター発表 工学院大学新宿区
 40. 山田祐樹・妹尾武治・駒場昌幸・池田比佐子・松谷綾夏・佐藤瞭一・駒場久美子・川久保晶博・北岡明佳・友永雅己 (2014) イルカの視覚メカニズムを求めて 日本基礎心理学会第 33 回大会 ポスター発表 首都大学東京 東京都八王子市
 41. 岸本励季・佐々木恭志郎・郷原皓彦・小代裕子・南智然・三浦佳世・山田祐樹 (2014) 黒子が男に見えるとき—自己の身体能力に基づいた他者判断— 日本基礎心理学会第 33 回大会 ポスター発表 首都大学東京 東京都八王子市
 42. 佐々木恭志郎・山田祐樹 (2014) いろいろとありがとうございます—他者の不幸は嬉しいしクリエイティブにもしてくれる— 日本基礎心理学会第 33 回大会 ポスター発表 首都大学東京 東京都八王子市
 43. 山田祐樹・佐々木恭志郎 (2014) どっちつかずは気持ち悪い—半端者の潜在的脅威が不気味の谷を穿つ— 九州心理学会第 75 回大会 ポスター発表 宮崎公立大学 宮崎県宮崎市
 44. 佐々木恭志郎・小野史典・山田祐樹 (2014) 嫌悪刺激暴露によるマインドフルネスの変容 九州心理学会第 75 回大会 ポスター発表 宮崎公立大学 宮崎県宮崎市
 45. 長池淳・松本清・山本篤・福田竜大・山邊結子・

- 照井佳世・吉村友里・中川敏法・藤田弘毅・川崎章恵・佐藤宣子・藤本登留・清水邦義・岡本剛・山田祐樹・永野純・Kurniawan Eka Pormane・光藤崇子・大貫宏一郎・石川洋哉・中島大輔・安成信次・嶋津久憲・渡邊雄一郎・井上伸史 (2014) 「無垢材」と「新材」を使った居住空間におけるヒトの生理心理学的分析 第 21 回日本木材学会九州支部大会 口頭発表 くまもと県民交流館パレア 熊本県熊本市
46. 佐々木恭志郎・山田祐樹・黒木大一郎・三浦佳世 (2014) 蓮コラを心理学する YPS・若手ジョイントセミナー—視覚・知覚・認知科学のための計算論モデリング— 口頭発表 休暇村志賀島 福岡県福岡市
 47. 山田祐樹・佐々木恭志郎・三浦佳世 (2014) 法と空間心理学—法廷配置と利き手が生み出す量刑判断バイアス— 日本認知心理学会第 12 回大会 ポスター発表 仙台国際センター 宮城県仙台市
 48. 佐々木恭志郎・山田祐樹・三浦佳世 (2014) 無意識的な感情処理は空間と感情の概念的連合を活性化させるか? 日本認知心理学会第 12 回大会 ポスター発表 仙台国際センター 宮城県仙台市
 49. 佐々木恭志郎・山田祐樹・國枝里美・和田有史 (2014) 意識にのぼらない嗅覚情報は未知なる果実の好意度を上昇させる 第 14 回香り・味と生体情報研究会 口頭発表 福岡工業大学 FIT セミナーハウス 大分県由布市
 50. 岩佐和典・田中恒彦・山田祐樹 (2014) 改訂嫌悪傾向・感受性尺度日本語版の因子構造, 信頼性, 妥当性 日本感情心理学会第 22 回年次学術大会 ポスター発表 宇都宮大学 栃木県宇都宮市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 祐樹 (YAMADA, Yuki)
九州大学・基幹教育院 准教授
研究者番号: 60637700